

## 総合工学委員会 総合工学企画分科会（第24期・第4回）

### 議事要旨

日時： 令和元年7月19日（金）10：00－12：00

会場： 日本学術会議6階6-C(1)会議室

出席者：

吉村忍委員長（東京大学）、大倉典子副委員長（芝浦工業大学）、小山田耕二幹事（京都大学）、所千晴幹事（早稲田大学）、荒川泰彦（東京大学）、岸本喜久雄（東京工業大学）、榎木哲夫（京都大学）、筑本知子（中部大学）、柘植綾夫（日本工学会）、永井正夫（日本自動車研究所）、西尾チヅル（筑波大学）、萩原一郎（明治大学）、藤井孝藏（東京理科大学）、矢川元基（原子力安全研究協会）、大和裕幸（海上・港湾・航空技術研究所）、渡辺美代子（科学技術振興機構）

話題提供者：小林傳司教授（大阪大学）

配布資料：

資料1-1, 1-2 総合工学企画分科会（24期・3回）議事要旨・議事メモ

資料2 市民参加型テクノロジー・アセスメント

資料3-1, 3-2 総合工学シンポジウム企画案改訂版、同学術フォーラム提案

議事：

#### 1) 前回議事要旨の確認

吉村委員長より、資料1-1および1-2に基づき前回議事要旨（確定版）の紹介が行われた。

#### 2) 話題提供「市民参加型テクノロジー・アセスメント」

小林傳司教授（大阪大学理事・副学長、教授、第1部会員）より「市民参加型テクノロジー・アセスメント『科学技術と社会』から『社会の中の科学技術』へ」と題した話題提供をいただいた。科学技術と社会の関係の変容について、科学技術の社会的側面、特に科学と社会の界面に焦点をあて、市民意識の変容する1970年前後で、テクノロジーアセスメント（TA）が参加型TAと変化し、その結果、形成された倫理的・法的・社会的問題（ELSI）という学術分野や「科学に問うことができるが科学だけでは答えられない」というトランスサイエンスの具体例が紹介された。

引き続いて、ELSI研究成果を、初等・中等・高等教育でどう実装するべきかという観点で議論が行われた。

### 3) 総合工学シンポジウム企画改訂案審議

吉村委員長より、学術フォーラム提案を意識し、文理連携で社会課題に立ち向かうことに軸足をおいた、3部構成からなる改訂案趣旨が説明された。引き続き、話題提供数やタイトルで使われた「文理連携」というキーワードの適切さの観点で議論が行われた。この結果、参加者に気づきを与える観点では、話題提供数は適切と考えるが、キーワードについては、聴衆を混乱させないように「文理の協創」を使うことにした。また、時間的制約から、学術フォーラムには、本企画を提案しないことにした。

### 4) 今後の総合工学委員会・総合工学企画分科会活動予定審議

### 5) その他

以上